

4895 心模様：初詣・酒神としての信仰・松尾大社

京都四条通りの、西の端に位置する、桂川の橋を渡ると、松尾大社。

嵐山にも近く、散策コースの一つ。お酒の神様。

「心通わす一献、心狂わす深酒」という言葉がある。酒は、毒にも、薬にもなるのではないか
子供の頃、未成年だが、そんな言葉を耳にしていた。酒は要注意。

頭に、刷り込まれていた。



やけ酒や、酒癖、時に、人をくるわせてしまう。

「酒は百薬の長」と故事ことわざ辞典にある。「適量の酒は、どんな良薬より効果がある」とお酒を賛美した意味で、前述の、毒にも薬にもなる。脳に、到達するらしい。

長く生きてきているので、現実を見てきている。今は、特に要注意。

フランス、パリ滞在でも、リスク管理の大きな要素。ここで、また脱線。今年は、伏見へ。



幼少時だが、祖母がつくってくれた、**粕汁**や、おやつ、**こぼれん~め**が、思い浮かぶ。

甘くて、美味しい。東寺の弘法さんの露天商には、「こぼれ梅」と表示。

こぼれ咲く白梅の情景に由来しているらしい。天然みりん粕、

そのままおやつに、白酒、甘酒にもできる。酒の**とじ**をしていた人が近所に住まいしていて、お正月には、いただいたものである。杜氏（とうじ、とじ）とは、

日本酒の醸造工程を行う職人集団、Kさんは職人さんの監督者で、酒蔵の最高責任者。

戦争前はお茶器など銅器の製造業で、戦争で金属類、**全て抛出、廃業**。

親父殿は銀行員に。酒好きであったこともあって、しばらく、交流が続いていた。

戦争のおかげで、**環境や状況が激変**。一家は、**離れ離れ**になり、幸せは、つづかなかった。

子ども心に、そうした体験が、心身に、刷り込まれていて、今日がある。

松尾大社には、特別な思いが、今もある。